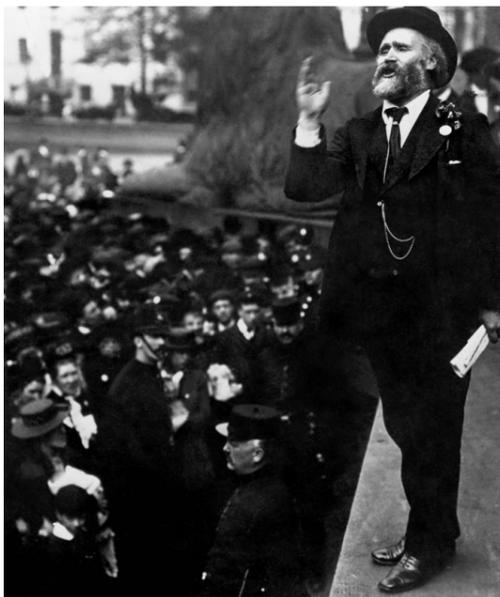


# 基督教友愛新聞

発行所：  
白十字キリスト教  
社会主義研究会  
(http://www.ichus.net/css)  
発行人：  
倉井 香茅哉 (独立系研究者)

# 英国労働党の結成

## 労働代表委員会による「労働同盟」の具現化、社会主義政党的確立へ!!



写真：演説するケア・ハーデー

(c) https://img-fotki.yandex.ru/get/115272/97833783.13fd/0\_1b170d\_fa464f99\_XXXL.jpg

今号では、前号にひきつづき、労働党の結成に至る流れを概説する。

一八九三年一月、ブラッドフォードで独立労働党 (Independent Labour Party) が結成された。その後、一八九九年九月の労働組合会議を経て、一九〇〇年二月、ロンドンのメモリアル・ホールで労働組合と社会主義団体の特別会議が開催され、労働代表委員会 (Labour Representation Committee) が成立した。今回は、その経緯を詳述したい。

この時期の背景として、自由党と労働組合の連携を基調とする自由・労働主義の限界が露呈するとともに、ケア・ハーデー

デイの活躍によって労働者自身を主体とする独立労働主義の気運が高まり、労働組合と社会主義団体とのあいだで連携の動きが現われたことを指摘できる。これを「労働同盟」と呼ぶ。

しかしながら、一九〇〇年二月の労働代表委員会が成立する前後、労働同盟が具現化されるまでの道のりは、けっして平坦なものではなかった。すでに一八九五年の総選挙において、独立労働党は二八名の候補者が全員落選するという失敗に見舞われている。この落選者の中には、ケア・ハーデー自身も含まれていた。独立労働党内部での彼の威信は低下し、党内では社会民主連盟との統合を模索する者も現われた。一方、労働組合には、依然として旧来の自由・労働主義に固執する者も多かった。

## 労働代表委員会→一九〇六年、労働党へ 保守党VS自由党の二大政党制に対抗

ともあれ、一八九九年九月の労働組合会議では、労働組合と社会主義団体の協力関係を構築するための特別会議の

招集を盛り込んだ決議案が採択された。独立労働主義を受け入れるまでに至らずとも、労働組合運動そのものが時代と共に変化しつつあったのである。そして、一九〇〇年二月の労働代表委員会には、労働組合や社会主義団体の代表たちが集結した。メモリアル・ホールに集まった大議員は一二〇人を超え、五七万人の声を代表した。社会主義団体からは、独立労働党のケア・ハーデー、ラ

ムゼイ・マクドナルド、F. W. ジョウエツトら七人、社会民主連盟のハリ・ケルチら四人、フェビアン協会のエドワード・ピース一人、合計一二人で二万三千人を代表した。それ以外の圧倒的多数は労働組合員である。なお、協同組合は代表を送らなかった。討議の過程では、労働組合の利益を堅持しようとする立場と、社会主義の理念を労働者に浸透させようとする立場が衝突した

が、ケア・ハーデーらの努力によって両者の妥協が図られた。その後、労働代表委員会は、一九〇三年の規約制定、さらに、一九〇六年の総選挙における勝利を経て、労働党に改称される。当初、ボーア戦争の最中に成立した労働代表委員会に対するイギリス国民の関心は低かった。しかしながら、労働者が既成政党との関係を断ち切り、社会主義者と連携することを目指した時期として、この間の経緯は特筆すべきものである。とはいえ、労働者独自の議員

【参考文献】  
(一) 須藤博忠『イギリス社会運動史』(立花書房、一九五四年五月)  
(二) 伊達宗雄『イギリス労働党の創成』(成城大学経済研究) 第二号(成城大学経済学部、一九六〇年五月)  
(三) 関嘉彦『イギリス労働党史』(社会思想社、一九六九年二月)  
(四) 杉本稔『イギリス労働党史研究』(労働同盟の形成と展開) (北樹出版、一九九九年二月)

## 祈々のことば

いつの日か幾億年の未来には星屑になる街を生きる

倉井香茅哉

二〇一七年七月の作歌である。地球の歴史は四六億年前に始まり、以後、四〇億年前の生命誕生を経て、豊かで多様な生態系が育まれた。一方、その歴史は、度重なる大量絶滅の歴史でもあった。人類の文明もまた、いずれば滅亡することが運命づけられている。内村鑑三の『羅馬書の研究』第三八講では、人間の罪を「神よりの離絶」と定義し、三位一体の神の実験によって「神の子」とされることに希望を見出している。キリストと共に「後嗣(よき)」となる者は、「改造せられたる宇宙万物」を「賦与」される。また、内村の宇宙論において、苦難と栄光は表裏一体である。——有史以来、あらゆる集団は興り、そして消えていった。太陽の下に新しきことなしとは古人の道破した言葉である。しかし、それでも希望を失わずに日々を生きることは、未来の救いの約束に基づく。

## 天帳院日記

かつて、「赤い貴族」と呼ばれた有馬頼寧の生涯に憧れていた。旧筑後国久留米藩主の家系である有馬家の当主、有馬頼萬伯爵の長男として生まれた頼寧は、大正年間、社会運動や奉仕活動に傾倒し、多額の私財をそのために投じた。結果、有馬家の家計は大きく傾くに至ったという。僕の自己イメージは、内村鑑三よりも、有馬頼寧に近い。大学院に在籍していた頃から政治関係者と会い、東日本大震災以降になると社会運動に参加した。しかし、どれほどの成果があったのかは自信がない。それどころか、他者を救うことで自己の実存的な苦悩を覆い隠そうとしていただけかもしれない。畢竟、それは傲慢であろう。二〇一六年に活動休止を宣言して、隠者のように自己の思索へ沈潜した。有馬頼寧になりたかった神経衰弱の創作家にとって、それは一つの償いである。

## 告知

# 無教会全国集会

## 2017 (記録集)

### 無教会とは

コリントの信徒への手紙一 (6章19節)

知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。

2017年10月28(土)～29日(日) ※終了  
千葉県市川市・山崎製パン企業年金基金会館

## 紙媒体、鋭意編集集中!!

(4月刊行予定)

<http://blog.goo.ne.jp/mukyokai2017> (ブログは、左URLまたは下記のQRコードから)



無教会全国集会準備委員会